フィードバックがパフォーマンスに与える影響 ～性格特性との関連～
Effect of feedback on performance: The relationship with personality

1K07B057-2　　兼橋 志帆
指導教員　主査 山崎勝男 先生　　副査 正木宏明 先生

【目的】

学校体育において，生徒の学習効果や学習意欲を高めるためにフィードバックの重要性が提唱されている．また，競技スポーツにおいても，指導者による助言などのフィードバックは競技者にとってきわめて大きな役割を担う．一般的には，否定的フィードバックよりも肯定的フィードバックの方が効果的であるとされている．しかし，同じ言葉を投げかけても，個々の性格特性によって，感じ方が異なる可能性がある．そこで本研究では，肯定的フィードバックと否定的フィードバックがパフォーマンスにどのような影響を与えるのか．また，性格特性に応じて，どのようなフィードバックがパフォーマンス向上に有効であるのかを検証することを目的とした．

【方法】

本研究では，ゴルフパット課題を実施し，パフォーマンス時に被験者に対して肯定的な言葉かけを行う肯定的フィードバック条件，否定的な言葉かけを行う否定的フィードバック条件の 2 条件を設定し，フィードバックがパフォーマンスに与える影響について検討した．また，被験者の性格特性を NEO-FFI 人格検査を用いて調査し，各条件のパフォーマンスとの比較を行った．課題遂行後には，主観的評価について VAS を用いて実施し，集計結果は，肯定的・否定的フィードバック条件間で比較した．さらに，NEO-FFI の各項目の高い群 6 人，低い群 6 人に分け，群分けによる比較をした．また，その結果，有意差があったものに関しては VAS 結果と比較し，検討した．

【結果】

肯定的フィードバック条件と否定的フィードバック条件間の比較において，t 検定の結果，条件間に有意差は認められなかった．NEO-FFI の性格特性と肯定的・否定的フィードバック条件間の比較において，相関分析を行った結果，開放性と肯定的フィードバックの間に正の相関傾向($R=0.38$，$p<.10$)，調和性と肯定的フィードバックの間に正の相関傾向($R=0.72$，$p<.10$)，誠実性と肯定的フィードバックの間に正の相関傾向($R=0.41$，$p<.10$)が認められた．また VAS においては，t 検定の結果，緊張度の項目は，肯定的フィードバック条件の方が否定的フィードバック条件よりも得点率が高い傾向を示した（$p<.10$）．NEO-FFI の各項目の高い群 6 人，低い群 6 人に分け，t 検定を行った結果，調和性が高い群($p<.001$)，誠実性が高い群($p<.05$)は低い群と比較して，肯定的フィードバックによって有意にパフォーマンスが向上した．肯定的フィードバック条件における調和性が高い群，低い群の課題後に実施した VAS の得点率を比較した結果，調和性が高い群の方が低い群に比べて快適度（$p<.05$），集中度（$p<.001$），やる気度（$p<.05$）において有意に得点率が高かった．また，誠実性が高い群の方が低い群に比べて，やる気度において有意に得点率が高かった（$p<.05$）．

【考察】

肯定的フィードバック条件と否定的フィードバック条件間には，有意差は認められなかった．これは，被験者の大半はゴルフパットの経験がなく，課題の難易度が高かったために，フィードバックによって差が顕著にでるものでなかったことが考えられる．また，調和性の高い人，誠実性の高い人は，肯定的フィードバックによりパフォーマンスが向上した．すなわち，調和性の高い，他者の言葉かけに影響されやすい人は，肯定的な言葉かけに同調し，パフォーマンスが向上したことが考えられる．また，誠実性の高い，達成意欲の高い人は，VAS の結果より，誠実性の高い群は，低い群よりもやる気が高かった．したがって，肯定的な言葉かけによって，さらに動機づけが高まり，パフォーマンスが向上したと考えられる．

本研究より，調和性，誠実性の高い人は，肯定的な言葉かけによって，動機づけが高まることで動機づけの最適水準に近づき，パフォーマンスが向上したと推測される．